

夢窓幼稚園通信第1号

2021年 4月 3日



風を感じます。
どこからか やってきて、むこうの
方へと流れていきました。
力を取り戻したおひさまの光の中を、
いのちたち上を、間を通り抜けて
いきます。

「新しい時、春のよろこびを共に歌い交そう!」とお誘いしたり
お知らせして回っているのでしょうか?

中学校を卒業した卒園生が「幼稚園に行ってみよう。」と
いう相談がまとまり、翌朝訪ねてくれました。
次の世界へ進むにあたっての原点確認という訳ではないので
しょうが、ほのぼのと 楽しそうでした。新しい羽をつけて
飛び立つ前のひと度 ほっこり!には、幼稚園はいい場所
なのかもしれませんね。

桜の花も早くに開き、今年は3月中に満開を迎えました。
ふる桔梗もチューリップも 隣どうして おしゃべりをしたり、

春の風をたのしんでいるみたい
です。

昨年たくさん生まれ育った、
廊下の電灯の上のツバメの巣に
今年も親鳥がやってきました。
…期待できるかもしれません。
春の休みに 園庭の遊具(どんぐり)



やまのいえ)の床板などをバスの先生が修繕し、新しく素敵に
“檜のあそび舞台”にしてくれました。

子どもたちがあそびに来てくれるのを待っています！

みんな羽化したり、開花したり、気分一新...です。
私たちも新しい自分へとメタモルフォーゼの春ですね。

世界情勢も コロナウイルスも すっきりとは見通しが立たず、世の中
ままならないことには変わりはありません。

そうであれば、なおさら私たちは余計に、私たちの関係性がすが
すがしくゆたかであるようにと願いたいと思います。

通りがよくない世界に生きるのであれば、私たちこそ通り合える人と
人との生きる場を作ろうと意志したいと思います。

私たちと共に生きる子どもたちは、私たちが願い作ろうとする人と
人との関係性を、つむぎ出す**共同利益社会**を自分たちが生きる
はじめのモデルにすることでしょう。

新しい時を、この場で始めるにあたり、あらためて尊敬するカール
ケニツヒ先生(医師であり、治療教育家であり、キャンプヒル運動の
創始者)の言葉を響かせておきたいと思います。

人と人が助け合い 自我と自我が出会い
その人の信条や 世界観や 政治活動の
如何にかかわらず

他者の人間性を認めること
それだけなのだ

ただ単に 二人の人間が目と目を見合わせるだけ

たったこれだけのことが

治療教育をつくりあげ それが我々の深奥の
人間性をおびやかすものを打ち砕き
真の人間性を 回復させてくれるだろう

今からここに集う私たち一人ひとりによって、また新しい夢窓幼稚園
園が作られていきます。一人ひとりの思いによってつむがれていきます。
私は心の中で、例えば“職員室は「せんせいの音隆」、給食室は
「ようちえんの台所」、給食は「おひるごはん」...と呼ぼうと思います。
どこかほっとできそうな気がするからです。笑顔でいられる気がするから
です。

共によき一年を過せることを、心より願っています。

園長 弁光 泰雄